

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日： 令和5年 2月 8日

事業所名：ぱたぱた朝霧校

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	法令に遵守したスペースを確保し、定員や活動に適した広さを提供できている。	・概ね、「はい」との評価。	
	2 職員の適切な配置	利用者と職員の比率が2を割らないよう人員配置を行っている。	・概ね、「はい」との評価。	保護者やこども達が今後も安心して利用できるよう、適切な職員配置を継続していく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	事業所内の玄関やスタディールームに段差あり。トイレや洗面などは分かりやすく配置できている。	・「はい」と「わからない」	職員が児童に付き添う、必要であれば手をひく等のサポートを継続していく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	毎日、掃除や除菌を行い、整理整頓にも努めている。	・概ね「はい」との評価	掃除、除菌、整理整頓の徹底を行い、衛生面に十分配慮していく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	定期的な職員会議、また必要だと感じた場合にも会議を行っている。職員同士で情報の共有や問題の改善案を出し合っている。		今後も継続。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	実施していない。		第三者評価の実施は予定していない。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	虐待研修は年1回行っている。外部研修参加の希望があった場合は、その都度日程調整が行えるよう準備を整えている。		今後、外部研修案内があれば、その都度できるだけ参加を促す。様々な研修を通して、職員の質の向上に努める。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	保護者との面談の中で、子どもと保護者のニーズを聞き取り、個別支援会議を実施している。6ヶ月に一度、放課後等デイサービス計画(支援計画)を作成を行うが、必要と判断した場合には、6か月を待たずに見直しを行うように努めている。	・概ね「はい」という評価。	今後も保護者と本人のニーズを支援計画に反映させつつ、情報共有を大切にしながら、より良い支援方法に取り組んでいく。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成			
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載			

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供(続き)	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	支援計画の内容を職員が把握し、支援を行っている。支援計画通りにいかないこともしばしばある。	概ね「はい」という評価。	
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	職員がそれぞれ案を出し合い、話し合って決定している。		今後も継続。
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	利用時間に応じた活動内容を設定し、子ども達に楽しんでもらえるようにしている。随時、新しいプログラムの検討を行っており、様々な案が出るので、あまり固定化することなく活動できているのではないと思う。	概ね「はい」という評価。 いつも子どもが楽しいと言って帰ってくる。	子ども達が「たのしい」とたくさん笑顔を見せてくれることを一番に考え、今後も様々な活動を取り込んでいきたい。
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施			
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	支援前には必ずミーティングを行い、当日の活動の確認、引継ぎ報告を行っている。役割分担が必要な場合も確認を行い、スムーズに活動が進むようにしている。		今後も継続。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化			1日や活動の振り返りを大切に、より良い支援方法を模索していく。
	10 日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	活動記録や連絡ノートの記入により、日々の様子を記録、保管している。		今後も継続。
11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	6か月毎にモニタリングを行い、見直し。必要と判断した場合には、6か月を待たずモニタリングを行うこともある。		今後も継続。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	担当者会議へは、適切な職員が参画している。 (セルフプランの方も多いため、担当者会議数は多くない。)		今後も継続。
	2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	現在、該当者なし。		必要があれば、円滑な移行支援に努める。
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	現在、該当者なし。		
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	現状できていない。しかし、研修の受講については職員に必ず案内をするよう努めている。		今後も、研修案内を職員に周知し、受講できるように日程調整等に努める。
	7 児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	現状、できていない。	概ね「わからない」という評価。	今後、実施できるよう検討を進めていく。
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	現状、できていない。	概ね「わからない」という評価。	今後、地域の方々と交流を図れるよう、検討を進めていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時に丁寧に行うようにしている。	概ね「はい」という評価。	今後も継続。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	モニタリングや個別支援計画見直しの際に行うよう努めている。	概ね「はい」という評価。	今後も継続。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	現状、できていない。	概ね「いいえ」という評価。	
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	面談はもちろん、送迎時も保護者と顔を合わせ、子どもの日々の様子について話をするようにしている。連絡ノートを利用してのやりとりも毎日行っており、随時情報を共有できるよう体制を整えている。	概ね「はい」という評価。	今後も継続。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	必要に応じて、助言するようになっている。	「はい」と「わからない」	保護者が職員に相談しやすいよう、関係づくりに努めていく。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	現状、できていない。	概ね「いいえ」という評価。	保護者からの要望があれば検討する。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情相談窓口を設置している。苦情やご意見があった場合には、迅速かつ適切に対応するように職員にも指導を行っている。	「はい」と「わからない」	今後も継続。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	こども達には、視覚支援カード等の備品も使用しつつ、なるべく分かりやすく伝えるようにしている。保護者には、送迎時、必ず顔を合わせてお話をする時間をとるように心がけている。	概ね「はい」という評価。	今後も継続。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	月ごとに予定表を配布したり、お手紙や連絡ノートなどでお知らせしている。ブログも随時更新している。	概ね「はい」という評価。	今後も継続。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報に関するものは全て、設立時に指定されている鍵付き保管庫にて保存、事業所外への持ち出し禁止としている。保護者には契約時に、十分に留意する旨を説明している。	概ね「はい」という評価。	今後も継続。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	マニュアルを作成している。緊急時や災害時のマニュアルは保護者にも配布しており、必ず自宅保管していただくように周知している。	概ね「はい」という評価。	各種マニュアルを職員の目の届くところに掲示し、いつでも閲覧でき、内容をしっかり把握できるようにする。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	実施し、その都度記録に残している。	概ね「わからない」という評価。	避難訓練を行った際は、保護者にもその旨お伝えし、訓練の様子を共有するようにしていく。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	年に1回、内部研修を行っている。研修資料については、職員がいつでも閲覧できるようにしている。		今後も継続。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	身体拘束について実施する予定がない。保護者側からの要請があった場合に検討を行う。		身体拘束についての手順とマニュアルを作成し、必要となった場合に備えるようにする。また、それを職員に周知することを徹底する。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	保護者からの書面と聞き取りにて、アレルギーの有無を利用開始前に必ず確認するようにしている。		今後、アレルギーのある子どもが利用する場合には、医師の指示書に基づき、保護者とも連携をとりながら対応していくようにする。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハットがあった際には、記録を行い、職員間で必ず共有、再発防止に努めるようにしている。		今後も継続。